

第4回 美里町総合計画審議会 教育文化部会 会議録

年 月 日	令和2年8月19日（水）
場 所	美里町本庁舎 3階 ミーティングルーム
審議開始時間	午後 1時30分
出席委員	武田高誠委員、庄司美知留委員、西浦和樹委員、中村啓昭委員
欠席委員	
出席職員	教育総務課 課長 佐藤功太郎、まちづくり推進課 課長 齋藤寿 まちづくり推進課 課長補佐 小出千恵、教育総務課 主事 伊藤大樹 企画財政課 係長 鎌田拓也
審議終了時間	午後 3時48分

審議開始

—午後 1時30分 開始—

協議

教育総務課長： 本日は大変お暑い中、全国的には40℃を越えるような地域もあって死亡者も出ているということで大変な中ですね、来ていただきましてありがとうございます。先生、そちらは暑いでしょうね。

西浦委員： 京都なんですけど、熱風が来ます。仙台も昨日は暑かったと聞いているので、かなり似たような状況だと思います。

教育総務課長： なるべく効率的にですね、時間もなるべく短縮してやらせていただければなと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、ちょっと中村委員につきましてはできる限り出席というお話を聞いておるのですが、まだいらっしゃっていませんので、来られれば一緒に入っていただくということになると思います。

それで今回ですね、議会の全員協議会というものを同時刻開催しておりまして、その関係でまちづくり推進課長がどうしても出席しなければならないということもございまして、まずはですね、まちづくり推進課長のほうに関わる部分、その部分につきまして、まず最初にご協議していただければと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、部会長に進行をお願いします。

武田部会長： はい。こんにちは。

一同： 「こんにちは」の声あり

武田部会長： 最初に、Web会議ということでね、慣れない会議ですので、徐々に慣れながら本音を喋れるような感じでいったらいいかなと思いますのでご協力をお願いします。

それではちょっとね、狭苦しい部屋なんですけれども、課長さんのほうから話あった通り、効率的に内容のある話を進めていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

それでは、まちづくり推進課長のほうから、資料を見ながらご説明を頂きます。

まちづくり推進課長： はい。それではですね、本日先ほど教育総務課長からも話がありましたとおり、町の議会の全員協議会、こちらに途中出席しなければならないので、一度ですね、その際、席を離れますのでお許しいただきたいと思います。

それではですね、本日は、まちづくり推進課の小出課長補佐も出席しておりますので、私が不在のときは、対応をするということになります。

それでは、本日お渡しした、第2次美里町総合計画・美里町総合戦略（案）新旧対照表、こちらを使って、ご説明をさせていただきたいと思います。

次期総合計画の第1章につきまして、まちづくり推進課から、追加、修正をお願いいたします部分を、別紙の新旧対照表にまとめてございます。今お配りした資料をご覧くださいと思います。

次期総合計画（案）の21ページの施策の2、多様な人材の育成の修正箇所につきましては、第2回の部会におきまして一部説明をさせていただいておるかと思っております。

長崎へ中学生の派遣につきましては、第4章87ページの政策11の平和行政の推進の中にあります、施策の32非核・平和社会を実現するための対策において実施している事業であります。

また、中学生の姉妹都市のアメリカ、ミネソタ州ウィノナ市との交流は、第4章85ページの、政策10の住民活動の促進の中の、施策の31国際交流を推進するための対策において実施している事業でございます。

これらのことから、両方の表現等を合わせたいということで、今回、追加及び修正をお願いするものでございます。

まず、21ページの③施策の展開ですが、長崎への中学生派遣となっている部分です、被爆地への中学生派遣に修正させていただきたいと思っております。それからまた④のですね、施策の主要な取組（関連事業）ですが、こちらは、長崎への中学生の派遣をですね、「長崎に学ぶ」中学生派遣に、また、姉妹都市との中学生の相互交流の推進を、姉妹都市米国ミネソタ州ウィノナ市との交流事業に修正させていただきたいと思っております。

次に、次期総合計画（案）の24ページの施策の3の生涯学習の充実です。24ページの、④施策の主要な取組（関連事業）の一番最後の項目となります。文化・スポーツ施設の適正な維持管理をですね、文化・スポーツ施設等、「等」、をですね追加して、文化・スポーツ施設等の適正な維持管理に修正させていただきます。

こちらはですね、前ページの23ページにおいて同様の表現が出ておりますが、文化・スポーツ施設等の「等」、が入っておりますので、それに合わせてですね、同じく「等」を入れるということで整理させていただきたいと思っております。

以上ですね、資料に基づきましてご説明させていただきましたので、委員のみなさまにご確認をよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

武田部会長： はい。今、まちづくり推進課長のほうから資料を基に説明がありました。この原案のほうの語句の修正、それから語句の追加等が提案されました。21ページの前半の部分については、長崎へのという部分が、長崎に学ぶという語句の修正でした。それから、次は姉妹都市との、という部分が、具体的に他の関連で統一するって意味で同じ用語が使われるということですね。次の24ページの、文化・スポーツ施設の適正なという部分も、他の項目と整合性を持つため

に、文化・スポーツ施設等のつていうような「等」を入れた語句に統一するというか、語句の追加ということですね。そのような提案が今あったんですが、よろしいですか。修正案というかね、承認していただけますか。

各委員： 「はい」の声あり

教育総務課長： すみません、ちょっと私が言うのもあれなんです、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

長崎に学ぶ中学生派遣ということで、前のものの派遣と合っているんですね。そしてこの下が、前は相互交流の推進となっていたのですが、今度は交流事業と、「事業」が付いているんですが、これについてはこういう事業があって、その正式名称をお使いになったというところですかね。例えば長崎への中学生の派遣も、派遣事業とかね、揃えるのであればそういうのもありなのかななんて。ウイノナ市との交流だけでもどちらかに統一するっていうのもありなのかなとちょっと思いました。

まちづくり推進課長： それはですね、次期の計画案のですね、まず87ページを見ていただいて、下のほうですが④の施策の主要な取組（関連事業）の一番上のところです。第4章の部会のほうでは承認をいただいております、「広島・長崎に学ぶ」を「長崎に学ぶ」中学生派遣というこの表現と合わせたという所がございました。それで、ここの部分をそのまま持ってきたというようなところでございます。

教育総務課長： 並べたときに例えば片方はなんとか事業、片方は派遣というふうになっているので、ちょっと若干違和感があって、これは例えばこういう事業があるという理解でいいんですかね。

まちづくり推進課長： そうですね。

教育総務課長： ウイノナ市との交流事業というものがあって、これは継続的な主要な取組なんだということで、あと派遣については、派遣事業という事業ではないということですか。

まちづくり推進課長： 派遣事業という表現もできなくもないというところはあります。ここは書きぶりの部分となるので、事業と入れるのが間違いというわけではございません。この辺りの部分、事業という統一がよろしいというご意見であれば、第4回目の生活環境部会が終わっていますが、そこにそれを付けたいということをお話をしてですね、ご了解いただくとか、大きく中身に影響がないので、事務局におまかせいただくとかですね、そういう部分で調整を計らせていただくことも可能かなと考えてございます。

教育総務課長： 多分、おそらく全体的な体裁の整理の部分ですよ。

武田部会長： そうですね。

まちづくり推進課長： 他にも出てくるとは思うんですけども、主要な部分を変えず、表現を一部、この後のですね、答申後もですね、直させていただくこともあると事務局、企画財政課でも言っておりましたので、大きく影響ない部分とお認めいただけるのであれば、場合によってはここに追加変更等々させていただいて表現を直させていただくこともあるということでご了解いただけますか。

武田部会長： そうですね。生活環境部会のほうでそういう話があったってことなんです、膨大な資料の中でそれぞれの部会で話をしている関係で、統一したその語句の統一性とかね、並べ方とかの部分については部会ごとになかなかちょっとわからないことなんで、それぞれ担当する部会で、検討した中身で内容が大きく変更になるようなことがなければ、その語句を統一すると

かそういうことは支障のないことだと思うので、それはおまかせしてよろしいでしょうか。

各委員： 「はい」の声あり。

まちづくり推進課長： ありがとうございます。

武田部会長： 全体を通して見るってことは不可能なんで、じゃあ、そのようにお願いをします。一貫性のある語句の使用とか並べ方で統一してもらうということでよろしくをお願いします。

まちづくり推進課長： はい。ありがとうございます。

武田部会長： それでは、今日は3回目ということで、1回2回とお話を進めてきたんですが、今日は1回目2回目の他に、まだ残ってる部分、共通部分とか、今、生活環境部会のほうの話があったんですが、全体に関わる部分でも結構ですので、今日は検討してご意見を頂くということで進めてよろしいですかね。

一同： 「はい」の声あり

教育総務課長： それで、よろしいですか。まず始めに、他の部会への意見シートということで、うちのほうの部会にいただいている意見につきまして、これに対する対応をどのような形でするかというのを部会での審議結果を報告する必要があるがございますので、まずそのことにつきまして始めにですね、ご協議いただければなというふうに思いますので、よろしいでしょうか。

武田部会長： はい。

教育総務課長： それでは齋藤課長のほうからお願いいたします。

まちづくり推進課長： はい。それでは前回ですね、部会において事務局、企画財政課のほうから資料が提出されてるかと思えます、他の部会への意見シートでございます。

こちらは産業振興部会の葛西委員からいただいたものでございます。提出の意見の部分でございますが、町の情報取得に関するコンピューターリテラシー教育等について、施策3において、身近な学習の場として利用できる生涯学習環境の充実を図り、多くの人々が参加できる学習活動を展開しますとあります。住民が町からの情報を取得できる環境を整備するため、HP、SNS等からの情報を身近に感じ、取得ができる環境や仕組みづくりが必要ではないでしょうか。50、60代向けのコンピューターリテラシー教育、全世代向けのSNS活用教育など。という形でご意見をいただいております。

これにつきましてこの後、各委員さんのご意見をいただいて、出た意見をまとめて出すというような形にはなるのですけれども、まずですね、この関連の部分について、生涯学習の中でですね、このコンピューターの関係、コンピューターリテラシー教育とまで言えるのかどうかではございますが、今、取り組んでいる中身とかご説明させていただきたいと思えます。

まず現代社会ではコンピューターやスマートフォンなどを活用して、HP、SNS等から情報を取得することは生涯学習においても重要な能力の1つとして持つておくべき時代となっているかと思えます。身近な学習の場として利用できる生涯学習の充実を図りという部分に、実はこのコンピューターの部分も入ってくるのかなということで、取り立ててですね、このコンピューターだけをやっているというようなことはなかなかないのかなと。

今の世の中、概ねお仕事でコンピューター触る方はほとんどネットからの情報が取れるような技能をお持ちになっているのではないかなと思えますし、主婦の方でもス

スマートフォン等を活用し、子どもについてもですね、ほとんど親のスマートフォンとか家にあるいろいろな機材を使ってですね、そういう状況に慣れてるのかなと。

そうなってくると、一部取り残されているという部分になるとある程度年齢が上の方でそういう状況が家庭にない方とかっていう方はあまりこういうふうに触れる機会がないということになるのかなと思います。

ですので、指定管理をお願いしている各コミュニティ施設におきましても定期的にですね、このようなコンピューター教室とか、あとはスマートフォンの使い方とかっていう教室を一部やってる施設もございます。

このような部分は非常に重要な部分ではありますが、必ずしもみなさんが受けなければならないということで町としては現在取り組んでおりません。

今後ですね、もう少しこの部分についても力を入れていきまして、各コミュニティができなければ、町の直営でやっている中央コミュニティセンターのほうで年1回ぐらいとか希望する方に学べるような部分も作っていくというののもやはり必要なのかなと考えておりますので、これについては総合計画のほうに直接載せるべきなのか。実際事務事業の中では、生涯学習推進事業の中で、講座事業というのを作っております、各地区の住民のみなさんのニーズに合わせていろんな教室をやっているんですが、その中でコンピューターをやりたい、スマホの使い方を学習したいなど、地域の独自性、自主性に任せてやっております。町としてもですね、場合によってはこのようなコンピューターの部分についても取り上げてく必要があるのかなと今回のご意見でな感じたところでございます。

どのように総合計画のほうに反映していくべきなのかということも含めて委員のみなさまのご意見を頂戴できればなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

武田部会長： はい。他の部会からのご意見でした。ということで、前回もお話いただいたんですが、町としても、コミュニティ施設等を利用してそのような教室が開催されてるとか、してますというような話なんですけど、広域でいったら大崎の広域の中でもそういった教室を開いてますよっというようなお知らせ板がよく来るんですが、なかなか、多分こういう意見があるっていうのは、地元の町で行きやすいところでそういう教室が開かれているという情報が少ないのかもわかんないですね。

その情報が掴めていけば、近いところなんで行ってみようって話なんで、もう少し宣伝活動をするとか、せっかく開いてるんでそういうふうにしたらいいのかな。せっかく開催していれば、あと集まった人に次の希望を聞いてとかっていうような方法でやったらいいのかなと。それで、各種教室を開催してるっていうことなんで、いちいち細かくこれやりますあれやりますとかっていうことではなくて、町民の声を聞きながら、どういうことをしてほしいのかということをちゃんと掴んで、こういうことやりますっていうような宣伝するとか、広報することっていうことが必要なのかなと。せっかくやってるんでね、結果やってますっていうふうになってしまうと、え、やってたんだみたいな話でね、なっちゃうと勿体ない教室になるんで、そうしたほうがいいのかなと。各種教室で生涯教育っていうような、中身はそういう大きいタイトルでいいと思うんですけどね。なんか意見を聞く機会と、その、やってますよっっていうような広報とか、そういうことで力を入れてもらったら効果ももっと出るのかなと思うんですね。

どうですか、みなさん。庄司さんどうですか。

庄司委員： はい。50代、60代向けといいますけれども、実際今、70代、80代の方達のほうが逆に、50代、60代の方達ってというのは意外と使えると思うんですよね。

武田部会長： そうですね、仕事でね。

庄司委員： 仕事で使ってますしね、あとはお孫さんとか。それを考えると逆に70代、80代元気な方達、その方達のニーズがあるのかどうかというところで考えると、意外と地域に密着してるような感じがしまして、その人達はある程度、集まりの会に参加してる人達でお互いに情報交換して、先ほどおっしゃいましたように、地域ごとにパソコン教室やったりとか、やってらっしゃるって話だったので、まあその程度のものでいいのかなって思ったり、あとは広報も結構情報しっかり書いてありますし読みやすいので、私にしてみてもパソコン、携帯で町の情報見るよりも、広報で全部情報を一覧してる感じで。なので、時間と労力をかけてSNS活用できるようにしたらいいのかどうかというのは、またそこがどうなのかなっていうふうに疑問は思うんですけども、ニーズがどれくらいあるかっていうことですよ、ニーズがたくさんあればやはりこういうことを積極的に町としても取り組んでいっていいとは思いますが。

武田部会長： 西浦先生どうですか。

西浦委員： おっしゃった通りで、実際ニーズが私もどれくらいあるのか分からないので、そういったところのまず調査が必要なのかなっていうふうには思っていました。

例えばですけど、SNSの利用率とか、普段うちの学生もそうですし、我々自身がよく使うものから順番に、その使っていない方への教育っていう点では生涯学習もいいと思うんですね。

それで、もっと大きな話でいうと、例えばですけど、大学の社会連携センターとかそういうところがあるので、そういうところの部署に生涯学習っていうところがあるので、例えばですけどこういうオンラインでこういうSNS、情報教育に限らずですね、いろんなその生涯教育のテーマで講座開講してます。そういうものもこういうオンラインで受けられるような形をやろうと思えばできるかと思えますので、大学と連携されるとか、例えばこのSNSの利用で、今、先ほど出てたようなご依頼があったのは、50代、60代向けのコンピューターリテラシーでどの程度かちょっとわからないんですが、うちの学生さんレベルで分かる話であれば、学生さんのチーム組んで2、30人の教室開くんで派遣するとかです、そういうこともできなくもないでしょうし、それこそ、そういう形であればボランティアっていう形も可能なのかなとかです。

実際、社会連携センター、先ほどうちの部署だけじゃなくて、おそらく宮城大学さんとか、いろんなところでやっているかと思うのですが、依頼をかければある程度、その担当部署の方が相談に乗ってくれるので、そういうものも利用されるといいのかなっていうふうに思っていました。

それで、このリテラシー以外でっていうことで、ちょっと生涯学習全般という点でちょっとご意見というか、こういうケースもありますよっていう話で、例えば私が今いる京都の田舎のほうとかは、大学とか高校自体がないので、若い人に入ってきてもらうのに、例えばですけど佛教大学さんが入ってます、同志社大学さんなんかも研修センター置いてます、とかいう形で、いろんな若い方が高校とかなくても大学なくとも入っていける仕組みで、例えば夏祭りにそういうところでボランティアで参加するだとか、そういったこともされています。

なかなか、いきなり定住しましよとかそういうのは難しいと思うんですけど、地域振興を兼ねてこの10年くらい、京都で実際に観光の街なんですけど、かやぶきの里に若い人呼び込もうって言って、やっていらっしゃるところなんかもあるので、大学を上手く使う、特に大学の若い

世代の方を生涯学習っていうキーワードで上手く入ってもらってというのは、やり方としてはありなのかなと思っていました。

その中で位置づけでコンピューターとか新しいものが次々出てくるので、LINEだとか、T i k T o kでも何でもいいんですけど、ソーシャルネットワーク系の新しいものが出てくるたびに、我々より多分学生さんが手元で教えたほうが早いので、そういった1時間くらいの講座を開くとか、そういったこともできるのかなと思って聞いておりました。私からは以上です。

武田部会長： はい。ありがとうございました。

ちょっとね、耳新しいというか、なかなか地元の大学と一緒に連携をして、そういった生涯学習の分野でも手を組んでやっていくという、そういう発想の仕方ですかね。

私なんかはスポーツ関係のほうやってるので、どうもイメージとしては、例えば仙台大学さんが地域の人達とコミュニケーションをとる方法の1つとして、高齢者の方を大学に呼んで、一緒にそのニュースポーツの指導を学生さんにしてもらおう。それで、そのお礼に地域の活動に高齢の方々が学生さんと呼んで一緒に地域活動するというのは、そういう話は何回か耳にしたことはあるんですが、そういうことが例えば生涯学習の分野でもね、それに限らずなんかもっとこう親しくお互いに交流できていたら良い感じになるのかなって、今、先生の話聞いてそういう繋がり方って必要だなって思いました。

教育総務課長： よろしいですか。

武田部会長： はい、どうぞ。

教育総務課長： 今お聞きしていて、だいぶいろいろなお話が出たのですが、これはコンピューターリテラシー教育というところなのですが、やはり生涯学習というのは多様なものがあって、そういうものについての記載なわけなのですが、この中にですね、今言われたように、展開する際にニーズをちゃんと把握するんだと、あとは大学等と連携していくんだというようなところも盛り込んだほうが、今お話を聞いててよろしいのではないかなと。

あとはそれを展開する際に、やはり広報など周知の方法をもう少し工夫するということも必要なのかなと。やってることをしっかりアピールするというようなところですかね。そういうようなところで、ちょっとこの文言をそういう要素を入れさせていただいたほうがいいのかと、ちょっと今お話を聞いていて思っております。

それでこれのコンピューターリテラシー教育につきましては、やはりしっかりと調査をした上でですね、あとは先ほど庄司委員おっしゃりまされたけども、まさにその通りで、70代、80代、そのへんのケアをどうするんだっていうところも踏まえながらですね、調査を行って、実際にこの展開の事務事業の中でですね、それを実際に展開していくというようなところかなと。

なので、ここの基本計画に反映させる部分というのは、ニーズをしっかりと把握するんだと、大学等と連携していくんだと、その取組についてはしっかりと周知していくんだというようなですね内容でちょっと整理をして、よろしければ回答案と、あとここの反映させる文書です、それをちょっとこちらのほうで調整させていただいて、それをちょっと見ていただいて、この内容だったらいいなとか、もう少しこ直したらどうだという意見をいただいた上で、先ほど冒頭に話があった新旧対照表みたいなものを作って、それでやらせていただければよろしいのかなとちょっと今感じました。

武田部会長： はい。そのような今話された3点ですかね。みなさんから話した内容を、まずニーズを把握

すると、それからどういう方法でやっていく、まあ1つの方法として、大学と連携したらどうだと、じゃあ、そういうことでやっていきますよって言ったときに、それを町民のみなさんに広く周知をする。その方法、そういう方法でやっていくっていうような、そんなことができたら、表現できたら、割と具体的に進むのかなというような感じもするんで、細かい部分については文書等を作っていただいて、それがこの案に盛り込まれるかどうかで、最後確認をしたいと思います。いいですかね。このコンピューターのお話についてはね。

教育総務課長： はい。よろしければですね、あとまちづくり推進課長とも調整いたしまして、回答案と、この文書をですね、実際に反映させる文書をちょっとお作りして、早めにですねご覧いただいてご確認いただきたいなと思います。

武田部会長： はい。ありがとうございました。

今、他の部会への意見シートということでお話をさせていただきました。

それでは、これまでの部会でやった以外の部分について、みなさんのご意見ということで、今日は基本構想等からずっと最後のほうの町民の意見とかまで、全部ひっくるめていいんですかね。

教育総務課長： はい。若干説明させていただいてよろしいですか。

武田部会長： はい。

教育総務課長： それではですね、まず、これまで教育文化に関わる部分につきまして、2回の会議の中で見ていただいて、色々な意見をいただいていたというようなところでございます。それで、今回のこの部分を含めまして内容をまとめていくということになりますので、ちょっとですね、うちのほうで今回いろいろご意見をいただきましたら、ある程度それを修正、訂正したものをお手元にお送りしたいなと。ちょっと赤書きでわかるようにして、確認いただきたいなというふうに思っております。それで、それを見ていただいて何か修正、訂正する部分があれば言っていただいて、それをちょっと修正した上で最終的なまとめにさせていただきたいなというふうに思っているところであります。

それで、ちょっと今回お作りはしていないのですが、施策の3の生涯学習の充実という部分がございます。22ページからでございますけれども、これにつきましては、一緒にですね作った資料でA3版の表をですねお渡しして、これと合っているんだということでお話ししておったんですけども、ちょっとこの記載されている順番がですね、ちょっと違うんですね。文章自体は同じなのですが、記載されている順番がちょっと変わっている部分がありますので、それをちょっと、順番を変更させていただきたい。わざわざ照らし合わせると大変なのですが、見ていただくと、あれ順番違うなというのがあると思うんですね。

そこをですね、このA3のお渡しした表の順番で、これは2枚目ですかね、この横の表の部分で、生涯学習の充実の部分ですね。この順番がですねちょっと変わっているということで、まずこれ見ていただくと22ページでございますけども、22ページ、子どもたちの人間関係云々というものがですね、こちらの表では下から2番目に入ってます。

これ、何故このような形になったかという、もともとですね、この表のほう見ていただきたいのですが、目標を1つにしておったんですね。人生100年時代を見据えた生涯学習の推進という施策の目的を1本で作っております、その際にこの青少年の関係が上に上がっていたんですね。

ところが国の施策体系を見ていきますと、この青少年教育の推進とかですね、社会教育関

係施設の計画的な整備と維持管理の部分につきましては、この2番目にですね、目標3-2と入れましたけども、「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」、こういう部分に該当するということでしたので、これを2つに施策の目標をいたしまして、ちょっと並び替えを行っているというようなところでございますので、この見直した部分に合わせてですね、こちらの総合計画の記載の部分の順番をちょっと修正させていただきたいというところでございます。

そういうものを直した上で、案というかですね、それをまずは皆さんにお見せいたしまして、それで色々修正、訂正のご意見をいただいて、それでまとめ上げたいなというふうに思っております。これはうちの部会で審議する部分の内容というところになりますので、まずその点よろしくお願ひしたいというところでございます。

教育総務課長： 一旦、教育文化部会の内容につきましては、そのような形でちょっと整理をさせていただいてよろしいですか。

武田部会長： あの、項目の並べ方とかについては、私達話した中の部分とはちょっと違うんで、内容については話してあるんで、並べ方についてはお任せするっていうことでよろしいですか。

各委員： 「はい」の声あり

武田部会長： じゃ、そのようなことで。

教育総務課長： 大変申し訳ございません。もう1点漏れておりました。

あとですね、総合計画の中の27ページでございます。そのちょうど真ん中ぐらいにですね、ICTに関わる記載がございます。「国では全ての児童生徒1人に1台の端末の整備等を目標としており、今後、機器の更新費用、通信環境の確保、ICTに関する教育現場における人材の育成が課題となります」という記載があるのですが、これはもともとですね、国で令和5年度を目標に揃えましょうというような話をしておったんですけども、コロナの関係もございまして、今年度、令和2年度にやるということになりまして、予算を前倒しで国で準備したんですね。

それに合わせて各自治体で予算を取得して、それに取掛かるという状態になっておまして、実は8月の議会で、これに関連する予算を取得しております。それで今年度中に学校の高速ネットワーク環境をまず整備をすると、学校の環境ですね。学校内でWi-Fiの環境があると。それと1人1台に1台端末、うちのほうではiPadを渡すと。これはキーボードを含めてですね、それを配るということを今年度中にやるということになりましたので、ちょっとこの記載と合わなくなっていると。これは1人1台端末の整備を行ったということになると思います。

それで、今後の課題になるのが、やはり学習環境をしっかりと、指導体制をしっかりと整えなければならない。これが一番重要になると。例えばまたコロナが拡大して休校したとなった場合についても、ある程度双方向でコンタクトができると、そういう環境も作っていかなければならないというようなところもありまして、あと学校の中でも、これまではパソコン教室の中でだけパソコンをやっていたんですけども、今はそういう時代ではないので、常にそれを授業で使っていくというようなところも必要になってくるので、ただ、今その指導体制自体がですね、まだ国でも県でも手探り状態というか、まだしっかり確立されていない。先生方も研修をしっかりと積んでいるわけではないので、その部分をしっかりとやっていくという部分になってくるのかなと。

あとは、ここにも書いてございますが、更新をどうするんだと。例えばiPadとかあいう機器につきましてはほしい5年ぐらいの耐用年数だというふうに言われておりますけれども、それが5年で次来たら国でお金出してくれるのかとかですね、町で出す場合については大量なお金になると。そういうものをどうしていくんだというのは、これから国なり県にもですね、しっかり話をして、なるべく予算措置をもらいながらちゃんと更新していくというようなところも必要になってくるのかなというところがありますので、これにつきましても案をですね、ちょっと修正した案を一緒にお出しさせていただいて、先ほどのコンピューターリテラシーの関係でございますけれども、あれと同じような形でちょっと案を作らせていただいて、それを見ていただいて、それで修正、訂正があればさせていただいてという形でこの文言をちょっと変更させていただけないかなというところでございます。

武田部会長： はい。来年度からの話とかっていうことで進めてる中でも、その状況が変わってきてコロナの関係でですね、特にICTについては国のほうの方針としても早めざるを得ないということで、状況が大きく変わったということなんで、このへんの取組、課題の考え方については事務局のほうで修正、提案してもらって、あと検討させてもらって意見を添えるっていう形で。それができたら意見を添えるっていうことでよろしいですか。

各委員： 「はい」の声あり

武田部会長： はい、今話されたICTの話についてはね、変更がありっていうことなんでよろしく願います。

教育総務課長： はい。とりあえず、ここでちょっと1回、中村委員がいらっしやいましたので。

武田部会長： 今、中村委員さんが、ちょっと遅れてお見えになったんで、なかなか、ぼんっと入って大変かなと思うんですが、一応自己紹介をしながら、一緒に会議のほうに入ってくださいということでよろしいですね。あの、初対面ではないんで私は。じゃあ、自己紹介ということで、私から。初めましてではないんで、PTA関係の仕事をされてるっていうことなんで、PTAの事業のバレーボールの競技とかで顔を合わせてるんで、心強いなど。名前だけじゃわかんなかったんですが、中村さんってそうなんだったふうに思いました。今回のこの部会長を仰せつかりました体育協会の武田です。どうぞよろしく願います。庄司さん願います。

庄司委員： 庄司と申します。よろしく願います。小学生の子どもを持つ母親ということで参加してるんですけども、塾の仕事もしております、教育には大変興味を持っておりますので、今回このような機会でここにこうやって参加させていただいて、すごく充実した時間を過ごしてます。よろしく願います。

武田部会長： あと、今、京都のほうにいます西浦先生です。

西浦委員： 西浦と申します。よろしく願います。宮城学院女子大学で勤務しております。今日はあの、今週はですね夏休みをいただいております、ちょっと遠隔で参加させていただいてという形をとっています。これまで3回ぐらいの会議で、いろいろ美里町の状況とか伺っていて、何かできればなと思っておりますので、よろしく願います。

中村委員： よろしく願います。

武田部会長： では、町のほうから。

教育総務課長： はい。私も初めてではないので、よく存じておるといいますね、大変お忙しい中、今日来ていただきまして、本当にありがとうございます。今日はまとめということで、多分今日

は行かなきゃということで来ていただいたと思いますので、ちょっと途中からということではなかなかですね、議論の中に入るというのもあれなのですが、色々なご意見をですねお聞かせていただければということで、私、教育委員会の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

伊藤主事： はい。記録員として参加させていただいてます、教育総務課の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

中村委員： よろしくお願ひします。

小出課長補佐： はい。まちづくり推進課課長補佐をしております、小出と申します。本日は、課長と一緒に参加させていただきました。課長は同時刻にですね、議会のほうの全員協議会のほうに行っておりまして、先ほどまでおったんですが、席を外しました。申し訳ありません。

武田部会長： じゃ、中村さん。

中村委員： はい。南郷小学校でPTA会長をしております、中村啓昭と申します。今年で会長職5年目になりました。昨年度は美里町のPTA連合会の会長ということで務めさせていただきました。今、子ども達、自分の学校だけじゃなくて、美里町全体を見渡す良い機会になりましたので、ここで止まることなくですね、前に進めるような会議で意見を出させてもらえればなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

一同： 「よろしくお願いいたします」の声あり

武田部会長： はい。ありがとうございました。良かったですね。全員揃いました。お忙しいところありがとうございます。なかなかね、お仕事しながらなんで大変だと思うんですが、今、中村さんからお話のあったようにね、町の教育、行政とかに携われれば幸せかなと、そんなふうに思っ意見を出してきたところです。そんなふうに思ってるんですが、今日は教育文化会のほうでは教育の振興と、教育環境の整備というようなことで、2回ほどお話をしてきたんですが、その中でこの町の方針案に対する説明を聞きながらね、いろいろ、自分達の取り巻く環境とか、自分の感じてることを意見に出していただきました。まあ、気兼ねなく、少人数なんでね、話していただければいいのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

中村委員： よろしくお願ひします。

教育総務課長： 引き続きよろしいですか。

武田部会長： はい。

教育総務課長： それで、中村さんもいらしたので、確認ということで、まず教育文化部会に関わる審議していただいた部分につきましては、うちのほうでそれをまとめさせていただくと。それを見ていただいと、そしてそれをまたご意見いただいた上で部会としてのまとめをさせていただきます、案として提示することにさせていただきますということになります。

あと、もう1点でございますけども、これまでいただいたご意見については、うちのほうでちょっとそれを整理をさせていただきます。いただいたご意見につきましては、どこの章にどの施策に対してどういうご意見をいただいたか。そういうところを整理させていただきます、それを例えば本文に反映させない部分も結構あると思いますので、そういう部分につきましては、しっかりとそれを踏まえて事務事業をですね進めていくと、組み立てていくというところで活かさせていただきたいというふうに思っておりますので、ちょっとその資料を作成させていただきます。それもちょうとご覧いただきたいなというふうに思いますので、それも合わせてこれから調整をさせていただきたいというふうに思

ます。

それであと、本日まとめということですので、全体に対して何か気になることとかですね、ご意見をいただければというふうに思います。それでうちのほうの審議するというかですね、中身以外のことにもなると思うのですが、それについてもざっくりばらんに言っていていただいてよろしいのではないかなというふうに思っております。

それで構成といたしましては、1ページ目からですね、これは、はじめにというのがありまして、それで基本理念というのが14ページまでございまして、ここの部分がまず1つということになります。

それと、そのあとに基本計画ということになりますので、基本計画につきましては、それぞれの部会で審議をしていただいているというようなところであるというふうに思います。そのあとにですね、本文がずっとございまして、あとはさまざまな意見ですかね、111ページ。これについてはそれぞれに対する住民の方の意見ですかね、そういうものが一応ずっと載っております、あとは統計的な資料ですね、118ページからずっと統計的な資料がずっと載っていると。あとは128ページにはSDGsの関係の記載がされていると。これは17のターゲットの説明ですかね、そういうものがされていると。あと審議会の関係で条例ですね。あとは名簿、あとは審議会の開催状況ですね、これが入ってくるというようなところになってくるのかなと。あとはその後にですね、細かいところですけども、規定が入ってきておりまして、名簿があつてと。あと資料ですかね、用語集が140ページからそれぞれの記述されているものの用語の解説ですね、そういうもので構成されているというようなところでございます。

こういう中身につくしまして、なかなか、どこにどういうこと言ったらいいかというのは難しいところあると思いますけれども、全体を見てですね、色々と感じたことやお考えがあれば、お話をいただければなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

武田部会長： はい。限られた時間で残りの部分、それぞれ気になった部分とか、こういう項目が足りないとか、入れてほしいなということとかございましたら、かなり範囲は広いんですがね、あまり分野にこだわらずに出していただいてもいいと思います。事務方さんのほうでこの部分に該当する意見であればということまとめてくれるようなので、私ら思っていることを言わせていただければいいのかなと。いいですよ。

教育総務課長： 結構です。

武田部会長： そんな感じで、思ってる、気がついたところからお話を出していただいても結構だと思うんで、無理にまとめようとかって今日はしませんので、そのへんは想いを述べてもらえばいいと思います。

私ちょっと今朝NHKのニュース、朝の時間帯のニュースの特集なんですかね、ちょっと見たんですけど、学校の先生が大変だつてというようなニュースあったんですね。コロナを抱えて学校の先生がどのように奮闘してるかというような内容の特集だったんですが、7月は月100時間を超える超過勤務をしたと、中学校の社会の先生でした。体格の良い若い先生だったんですが、意外だったのが、生徒達が帰った後の机の拭き掃除、拭き掃除というか除菌ですね。それからトイレの掃除もしてました。トイレの掃除は子ども達が普段はやってるんだけど、一番感染しやすい場所じゃないかということで検討して、じゃあ教員達でやろうってということでトイレの清掃もやってますと。もちろん部活動もやってます。それから次の

日の授業の準備もありますというようなことで、ずっと1日を追って特集みたいにして出たんですが、いやぁこれは大変なことだと思ったんですね。なんか対策ってないのかなってというようなことも出てたんですが、例えばトイレの掃除とか机の除菌っていうのは業者さんをお願いしてやってもいいんでないかとかね、それから部活動については地域の人にも協力もらってもいいんでないかとか、あと授業の遅れてる部分については先生方のOBをお願いしてもいいんでないかというような意見が出たりしてそういう特集だったんですが、短い時間だったんですが、大変だなってというようなイメージを持ちました。

ちょうど今日がこの会議のある日なんで関心を持って見させてもらったんですが、教育現場はかなり大変だというような思いをしました。やっぱり地域もなんか知恵を出さないと協力しないとってというようなそういう気がしましたね。できることはやっぱり地域も関わったらいんじゃないかとそんなふうに思いました。ただ具体的にどうするかってところまでは出てこないんですが、先生だけにお任せしてたんでは多分潰れちゃうんでないかなと思うくらい大変だなってというような思いはしました。

やはりこの方針の中にも地域ぐるみでとかって話がところどころ出てくるんですが、なかなか具体的に進まない分、考え方はあるんですけども、具体的に進まないってところもあるんで、そういうネックになっている部分をもう少し検討してついたらいいのかなと、それも長い時間かけるんでなくて、もっと早く対応できるようなそんなシステムにしたらいいのかなと感じました。まず、それ1つ思いました。

みなさんのほうもご意見があったらお願いします。

中村委員： じゃあ、私から。この間小学校のほうで、役員を含めて総会を開きました。コロナの影響だったので、3月に本当はやるべきだったんですけども、それができなくて先月ですかね、夏休み前にということで開催しました。場所は体育館でした。リスク管理をしながらやりました。何故開催したかということ、まず予算の運用の仕方をはっきりしたいということと、行事の確認をしたいということで集ってもらいました。予算の中でですね、町からの補助、あとは学校で運用している予算、会費等で集めた中から、今年度は特に、まずアルコールの消毒液を切らさないということと、消毒に関わる備品ですね、それを切らさないということで、限られた予算の中で、開催しない委員会があったりとか、行事等にとってた予算をそちらに充てて、まず補充をして切らさないようにしておくということが1つ。

その中でですね、小学校の先生方も放課後とか業間なんかでは消毒を徹底してるということだったので、まずそれを切らさないことと、他の学校さんではPTAの方が輪番で消毒に手伝ってくれる学校さんもちらほら出てきてるようだったことだったので、うちのほうでもまだそれはしてないんですけども、用具が揃って状況が落ち着いてきたりとか、そのへんの先生方の業務量とか見ながらですね、もし負担になるのであれば協力しましょうかっていう話も出ましたので、そうなれば、武田部会長さんのお話にあったように、地域ぐるみでまずはこれを感染予防っていうところを今年度の目標にして活動していきましようということにしました。

あと他の地区のほうでも軒並み各地区の行事の中止ってなってるんですけども、6年生を持つ親御さんにしては最後ですし、1年生で入ってきた人達も不安なので、状況を見ながら各地区とかですね、子供会、行政区のほうは地区会長さんが判断して会を開いていただいて、開催するしないを思い切って決めて下さいということにしました。決める際は1人で迷わないで、みんなで考えて下さいということでその旨もお伝えしましたので、今年の会長だったからとい

って負担にならないようにということの話もして、会のほうもですね、止めることなく少しずつでもいいので進めて下さいっていう話をこの間総会で行いました。以上です。

武田部会長： はい。ありがとうございました。PTAさんのほうもなかなか大変な時期でもあって、ただ意見としてね、除菌とかなんかできることを協力していきたいっていうような気運にはなってきたっていう話なんでね、こういった動きがあれば、素早く形にできるような、そんなシステムになればいいのかな。もやもやしていつまでもずっと時間だけ過ぎていくような状況ではなくて、そういう動きがしやすい組織づくり、そういうのも必要なのかなと思いますね。

あと、庄司さん、いいですか。

庄司委員： はい。教育関係以外にもということでお話があったんですけども、いくつかありまして、まず出生率の向上。これはすごく大切な問題なんじゃないかなと、危惧すべき問題かなと思っております。その1つとして、私も子ども持つのが遅かったんですけども、やはり大人でも認識が、知識が足りない。何歳になれば子どもを持つのが難しくなるよとか、そういう情報っていうのがどこでも貰えないので、働いてる女性っていうのは、仕事メインになってしまうと、どうしても子ども後々っていうことになってしまうっていうのが最近の問題でもあると思うんですよね。

だからそういうことにならないように今後も女性の社会進出っていうのはどんどんしていくと思うので、学校での教育、早めの子どもの持つための教育っていうのもして行って、本当に知識が全ての女性が持っているような状態にしないと出生率っていうのはますます減っていくんじゃないかというふうに思っております。

そのための教育っていうのを徹底していただけたらなと。個人で苦労しましたので、それはひしひし思っていますし、そういう経験をした女性達も結構多いんですよね。病院に行けばすごいたくさんの人達が子どもが欲しくて高いお金を出しながら、仕事をしながら通ってるような感じ。そういう状況を目の当たりにして、もうちょっとそういう情報は本当に早いうちに必要だったんじゃないかなっていうふうに考えさせられました。

それから中学校が統合されるということで、3校統合ということで何年後かにあるんですけども、ESDっていうのを考えると先生達の視野をやはり広げていかなきゃいけないんじゃないかなって思っております。先生自身が世界的な視野を持って物事を見つめていかないと、子ども達にも同じような教育をできないと思うんですよね。それも1つ。どのようになっていくのかシステムになっているのか分かりませんが、私的に思っていることです。

あとは全く関係ないですけども、選挙運動なんですけれども、選挙カーがやっぱり選挙近くなるとすごく町中狭いところでも。私が子どもが小さいときに、やっとならしたのに、選挙カーがばーっと通って起きてしまったりとか、やっぱりどうしてもそのノイズがすごいで、日本中これは恒例となってるので美里町云々とは言えないんですけども、もうちょっと別の選挙運動の在り方っていうのがあるんじゃないかなって思います。

そしてその、名前を訴えるのがメインになってしまっていて、何をしたいのかっていうのがなかなか伝わって来ないっていうのが。人気投票というよりは、名前をいかにインプットさせるかみたいな感じになってると思うんですよね。それがもう1つですね。

あと最後に、生活苦の人達もやはり美里町にはいらっしゃるということで、おもちゃとか、衣類などの使わなくなったもの、そういうのは提供を受け入れてくれるところがあるのかどうか。その提供をして、必要なところに持って行って、また使っていただくというようなシステムは美里町にあるのかなと思ってまして、ネットなんかで調べたんですけども、ちょっと分

からなくて。どこかにね、まだ使えるものもあるのでっていうので海外のほうに、日本の団体通じて海外に送ってもらったこともあるんですけども、町内でもそのようなことができればいいんじゃないかなと。それで周りのお母さん方もいらなくなった子どもの服とか結構処分困ってますので、やはり有効に、物を無駄にせずに必要な人に使っていただけたらというシステムがあったらより良いのではないかなと感じております。私からは以上です。

武田部会長： はい。まとめて4点、お話をいただきました。広くお話いただきました。

私も賛同するようなたくさんあったんですが、出生率の向上という話で、なかなか今のお母さんになる人達ですか、なかなかそういう子どもを持つことについての意識がちょっと足りない、教育も足りないのかなっていうことの話、ちょっと私は意外でした。

中学校の統合の話についてはね、先生達にも高い意識持ってほしいという話。私まとめたら大雑把なんで、すみません。あと、選挙カーの話については私も今のやり方って必ずしも正しくはないなってふうに思いはしてました。全く同意見です。それから、物が余ってる時代の話なんですけれども、必ずしも余ってるばかりじゃないっていうようなそういう視点で、もし活用できるのであればそういうのを運用してくれるような部署が町にもないのかなっていうような話でしたね、困ってる人がいるんだったらそういう運用もというお話でした。

何でもという話だったんで、いいと思います。どんどん出していただいて。

武田部会長： 西浦先生のほうからもお願いします。

西浦委員： 私のほうも最初のほうに大学の社会連携とかそういうところを使えばいいんじゃないかって話をさせていただいたので、そのこと以外で、委員のみなさんの話を伺っている感想で、学校の先生がまず多忙だっているところの話については、これもかなり社会問題になっている話ですし、私が敢えてということではないんですけど、例えば今回コロナの件で、清掃業務が増えたっていう話で、やっぱりおっしゃってた通り、業者の方に入っていただくとか、そういうことも検討する時期なのかなというふうに思ったり、あとなんでもかんでも毎日ボランティアっていうのは大変なので、PTAの輪番でっていうのも限界がかなりおそらくあるんだろうなと思って聞いていた次第です。

業務が1個付け加わるたびに、学校の先生はどんどんそれを忠実にこなされるので、結構大変だと思って、何かを入れるんだったら何かを抜かないと実は駄目な状況になってきてるんだと思って聞いて考えてまして、海外とかだと本当に先生っていうのは教えることだけに特化してやってらっしゃるので、こういう清掃業務までとか部活とか、いろんなことまで請け負うっていうことは、本来やらないっていうのが一般的で、どんどん教える内容も新しいことが出てくるので、こういう清掃は清掃でっていう分業制をとれるような形にシフトされるのがいいのかな。特に予算に裏付けられたような、そういう制度にしまわないと、いつまで経っても先生が今度はボランティアで清掃しないといけないということになってくる。そこがちょっと心配しておったところです。

あとはですね、感染予防等についてもなかなか、テレビに出てしまうと一気にアルコールがなくなるとか、うがい薬がなくなるとか、そういうレベルのことが起こるので、先を見据えてというわけじゃないんですけど、全般的な感染症って、やっぱりインフルエンザがもともと流行ってとか、手洗いうがいで減って今度コロナのほうメインになってきてるけど、今、一旦治まった感染性胃腸炎がちょっと増えだしたとか、実はいろんな感染症対策全般で特に学校のほうで子どもを守るっていう意識で予防的な施策の中に感染予防っていうのを位置づけら

れて、ある程度予算措置だとか、物品確保だとか、そういうことができているといいのかなっていうふうに思って伺っていました。

あと、ちょっと話題が違うところになってくると、出生率の向上とか、そのあたりは本当に、働く場所があつてとか、働きやすい住みやすい、例えば島根県の隠岐の島のほうとかの学校、離島とかそんなところも、高校をなくすと人が減っていくっていうシュミレーションももうできているんですね。人口減のどこの社会でも、国が言う通りしてると同じような傾向にしか辿らないので、全然違うアイデアをおそらく出していかれないと、残っていかないだろうなど。奇抜なことを言う必要はなくて、少し違うアイデアを入れてみるっていうところを継続的にやっていくっていう仕組みができていけば、私はある程度残っていくのかなと。

その1つは、先ほど言っていたような大学の若い人達に、生涯学習もそうですけど、いろんな地域参加してもらおう。その中に美里町の学区から来てる学生さんもいるので、そういう人が中心になって町、地域づくりに関わっていくっていうようなことをされると、なおいいのかなっていうふうに思って聞いておりました。

あと、選挙とかそのへんの話も出ていたんですけど、投票率も含めて、市民参加っていうところだったり、民主主義っていう教育が日本は遅れているというふうに常々言われていてですね、私が過去何回かこの会議でも話しましたが、行っているスウェーデンとかは、投票率が80パーセントとか90パーセントの国なんですね。そういったところの国だと、高校で実は模擬投票して、うちは右だな左だなとか、そういうこと議論しているんですね。投票っていうのは1つの人を選ぶ仕組みではあつたり、施策決定とかいろんなところでも投票はしますけど、たまに勘違いされてるのは、投票自体が民主主義のやり方だってテレビでもおっしゃっている偉い先生いらっしゃいましたけど、そうじゃなくて、基本は合議制なんで、合議形成して最終的にみんな政策なり市民参加していくっていうところがやっぱり基本であつて、その1つの手段にその投票だとかいろんなことがあるっていうふうに意思決定の仕方の確認のためにあるっていうふうに、そういう教育自体我々実は受けていないので、いろいろ私なんかも他所の国に行って、例えば今回国際交流も挙がってましたけど、他所の国に行ったりすると価値観とかいろんなところが違うので、勉強して帰ってくるっていう、その良い流れがひよっとしたら出来る土壌は美里町はあるのかなとって聞いておった次第です。

ただ、使い方とか今後の方針は、ある程度継続的にやろうと思うと、先ほど申し上げた通り予算に裏付けられてるだとか、中心になって10年ぐらいやって下さる方がいるだとか、そういうところはかなり大事なところになってくると思います。具体的ところは実際いろいろですね、動かれるといいのかなとって聞いておりました。以上です。

武田部会長： はい。ありがとうございました。一番最初に私が言ったことについて、中村さんのほうからも言われました協力、ボランティアとして学校に関わって教育をしていくっていうやり方、長い目で見たら大変だろうなっていうのは、それは理解できますね。短期間だったらできるかもしれないこと、やっぱりきちっと制度として作って、予算も付けて長い目でその施策を展開していくっていうのは、これは当然必要なことだと思いますね。

ただ短い期間にそういう協力する基本っていうかね、そういうのが地域で盛り上がってくるような、そういう情報の伝達とか集まりとかっていうのがあったらいいのかなって、それが予算措置とかにだんだん繋がっていくのかなってというような感じもするんですがね。ボランティアだけでは必ず先が見えてしまうっていうのはありますんでね、そのへんは行政と地

域の方が話し合って、きちっと長く対策できるような可能性のある対策を立てるとかそういうことが必要だと思いますね。

今回みたいに急激にコロナが大流行して、さらにこの酷暑が毎日続くような状況になってどんどん情勢のほうに変化してるんで、素早くそういうのに対応していける気運っていうかそういうのを地域の活動の中でも敏感になって持つべきなのかなって思いますね。

最後に、西浦先生のほうからお話されたんですが、みなさん、どうですか。なんかあの、先生の話聞いて夢が広がるような部分があるんですよ。キーワードは何ですかね、その大学生の人、若い人が、そういう人とマッチングした地域活動みたいなのがなんか、それ聞いただけで夢がぱっと広がるような、そんなイメージが持てるんですよ。

そういうので活動が活発していったら、生涯学習とか、それから地域活動とか、そういう部分が若い人も高齢の人も一緒に広がっていくようなそういう活動が少し見えてくるような感じもするんで、なんかちょっと良い感じしてます。

どうですか、みなさんは。

庄司委員：　そうですね、もともと学校の先生達が多忙なのに対して、コロナの影響でさらに多忙化してるということで、やはり分業制っていうのは、やっていけないといけないと思います。先生のほうも本職のほう为抓手できずに、他のほうの対応で追われてしまって、先生としてのちゃんと自分自身の向上もできないと思うんですよ。そういうのは、やはり分業制っていうのは、とても良い案だと思っております。

武田部会長：　PTAもこのコロナでなかなか活動がね、スタートが遅れたりしてるんで大変だと思うんですけどもね、一番やっぱりPTAの組織としては、このコロナではかなり頭痛めてるんでないかと思うんですけどもね。

中村委員：　そうですね。

武田部会長：　学校自体が休みになったりとか、夏休みがほとんどなかったり、この状況でどんなふうになっちゃうんだらうっていう心配が、今回はそういう問題なんかも新しく出てきたのかなと。

教育総務課長：　あの、ちょっと私からも何点かお話をさせていただきたいと思います。

まず、庄司委員のほうから出生率の話が出まして、国といたしましては、2040年までに希望する出生率ですね、それが1.8って言われてると思うんですけども、そこを目標にしていきますよと。2060年においては、置き換えできる2.07ですかね、合計特殊出生率を目指しているというようなことで目標を掲げているとは思いますが、それにいくように施策を組み立てていくというような考え方なんですけど、然らば具体的にどういうふうにやっていくんだと。美里町でも全く同じ考え方を持っておりまして、出生率を上げることによって、下がっていくカーブを緩やかにしていくというような目標を持っていて、それを具体的にどういう指標を持ってどういうふうにやっていくんだということが非常に見えない。これは総合的にやるから上がるんだというんですけど、じゃあ具体的にどういうものを連携させてやっていけばそういうような状況が作れるんだというものを、やっぱり描きづらいとか、難しい部分がございます、全体的にやっていく中で上げていくんだというところなんです。

ただ、ある程度具体的に示せる部分もあるのではないかとということもありまして、例えば新中学校を魅力あるものにしていくと、そしてあそこで教育を受けたいと、そういうものを町の中心に例えば整備することによって、現在、駅前ですね、駅の西側ですけども

、だいぶ空洞化しておりますけども、そういうところが定住促進でいろんな仕掛けをしていくと、そこは持続的に住んでもらえるのではないかと。

そうすることによって、出生率を上げるわけではないですけども、若い人に定住していただいてというようなところで町としてはできるのではないかと。だから全体的な出生率を上げるというのはですね、非常に難しい話ではないかなと。これ今美里町でおそらくですね、出生率が1.3ってないぐらいなのではないかなと。私前見たときは、出生率が1.18というときもあったので、非常に低い状態で。県でも多分1.32とか、宮城県だとそれぐらいの数値だと思うんですね。そういう中で、ぶん捕り合いではないですけども、ある程度そういう環境を整備することによって、便利なエリアにすることによって持続していくというようなところを考えていく必要があるのではないかなと。

なかなか出生率を上げていくというのは、非常に難しい部分があるのではないかなというのが私というかですね、事務局では思うところがあります。ただ、それを上げながら、かつ、若い人に住んでもらえる状況を作っていくことが町としては必要なのではないかなというところがございます。

あと先ほどESDのお話ありましたけども、やはりそういうものをしっかり取り入れていくんだと。やはり先生の意識が必要ではないかなと。先ほど庄司委員がおっしゃってましたけども、やはり視野を広くとるといいますかね、そういうところがやっぱり大事なのではないかと。どうしてもこういう田舎の町ですと、狭くなってしまうと。視野が狭くなって、例えば地元を担う人材を育成すればいいのではないかと。でもそうではなくて、やはり地元も支える人間は当然これ必要ですけども、これはやっぱり国を支えるとか、極端にいうと世界に羽ばたくとか、そういうような人材を育成していくと。そのためにやはりESDの考えを入れていくと。そして子ども達に小さいうちからですね、やっぱり広い視野を持って、いろんなことにチャレンジできるような環境を作っていくというところがまず大事なのではないかなというふうに感じたところです。

あとは支援したいんだけど、どこに支援したらいいか、どこを通じてやったらいいかわからないというようなところがあるので、それを勿体ないけれども海外のほうに、身近でやりたいけどもっていうお話だと思うんですけども、ある程度、社会福祉協議会のほうでやっている部分もあると思うのですが、やはりそこらへんのマッチングっていうんですかね、需要と供給のマッチング。あと、どういうものが支援として出せて、こういうものは駄目なんだというところもね、ある程度情報として今マッチングしていないところがあると思いますので、そういうところはしっかりね、マッチングさせていく必要があるのかなというところですかね。

あと西浦先生のほうからも色々とお話がありましたけども、私がちょっと今頭にあるのがですね、感染症予防の関係をどこかに盛り込まなくてもいいのかなということですね。これはコロナだけではなくて、先ほど西浦先生が仰ったように、今子ども達も休んでいるところが、別な感染症によってですね、休んでいたりとかっていうところもありますので、感染症全体に対してやはりそういうものをしっかり対策して、子ども達の学ぶ環境を確保するという観点に立てば、これにつきましてはやはりしっかりとやっていくために何らかの位置づけというかですね、それもちょっと考えなければならぬのかなとちょっと思ったところがあります。なかなかちょっと今ぱっとは思い浮かばないのですが、ちょっとそういうところは

事務局とも話をしたいなと。コロナを受けてっていうんですかね、そういう部分があるのかなというふうに思います。

あとは先ほど西浦先生がおっしゃったところで、やはり独自の対策っていうんですかね、奇をてらった、変わったことをやる必要はないんだけど、やはりちょっと視点を変えて、やはりそれが継続的にできるような取組というお話があったのですが、やはりそこらへんは非常に大事な視点ですね、それを実際の事務事業の中でやっていくということが非常に重要だなと思ひまして、もともとこの町を持続させていくという取組自体が非常に難しいことであると。

例えば今東京は周りから若い人間を集中して、お年寄りが高齢化の都市だと思うんですけども、周りから吸収することによってある程度成り立っていると。今後どんどん高齢化が進んでいくとは思いますが、そういう中で東北で一番の都市と言われている仙台であっても減っていくというところで、そういう中で美里町で減らさない、将来的にも持続していくんだっていうことを考えていくと、これ非常に難しいことをやっていかなければならないというようなことだと思うんですね。

なので、それをやっていくためには先ほど先生がおっしゃったような、いろんなところと連携しながら、やはり良い視点っていうんですかね、いろんなニッチの視点とかいろいろあると思うんですけども、そういうところをしっかりとアンテナ立てながらですね、取り組んでいくことによって良い町、住みやすい町、そういうところに繋げていかなければならないのではないかなというところですかね。

やはりここの実際の取組がですね肝なのではないかなと。ただなかなかこれもですね、総力を結集してみんなでやるぞとならないと、例えば役所がやるぞやるぞと言ってもですね、やはり住民の方に本気になってもらわなければならない、あとは他の例えば大学の先生とかいろんな団体とかとですね連携して盛り上げていければ可能性としてはあると思うのですが、そこが上手く仕掛けられないと、できないと非常に厳しいなと。このまま消滅とは言わないですけども、やはりだいぶ厳しい状態になってくるのかなというところですので、今回の総合計画っていうのは1つ、縮小していく中で非常に重要になってくる計画であるというふうなところで考えておひまして、基本計画は骨格なので、まずは大きいところをまず要素的なものを入れ込んで、あとはその実際の取組につきましては、しっかりと効果のある、そういうものにしていかなければならないかなと、ちょっと感じました。すみません、なんかあちこち話がたってですね、取り留めのない話になりましたけども。

庄司委員： あ、いいですか。

武田部会長： はい。

庄司委員： 前に教育総務課長がおっしゃった、とにかく外から人をついでということで、魅力的な町づくりをしなきゃいけないっていうお話があったんですけども、今コロナの中、逆に都会から地方に目を向けてる方達もかなり多くて、すでにもう移り住んでいる方達というのもしらっしゃるようなので、やはりそのイコール魅力的な町づくりっていうところに引き継ぐと思うんですけども、その美里町の今できることと言ったら、美里町の良さを外に広げていく。ネットでもなんでも、ホームページでも。それから、近所散歩してて気になるのが空き家がとにかく多いんですね、でもそこはもう所有者、多分どうしたらいいか分からずに、おじいさん、お父さん、お母さんが亡くなってそのまま放置してあるっていうような状態とか、色々あると思うんですけども、そう

いう空き家を提供して、良い条件で再利用していればいいんじゃないかなっていうふうに思ったりしてました。

どこかでそういうことをしてるって話を聞いたことがありまして、その空き家を利用して外から人を引っ張ってくるっていう、そこらへんのつなぎ合わせも考えていけるような気がしますね。以上です。

教育総務課長： 美里町の良いところっていうのは、やはり程よく便利なところかなと。程いいっていうんですかね、すごく便利ではないけども、程よく暮らしやすい町っていうのもこれも1つの魅力ではないかなと。

武田部会長： そうですね。美里町になってからね、南郷地区と小牛田地区と合併してね、形としては良い地域が合併したのかなってというのは感じます。それぞれ良いところを持ってるところが合併して、それで、今もう10年も過ぎてね、今度は学校が1つになるっていうことで色々意見もあるようですけども、なんかお互いの持ってる地域を大事にしながらこういうのをしたらいいのかなと思ってます。

今ね、私の体育協会では今年から5年間、美里町と指定管理者の契約をしてスポーツ施設を5年間お任せ下さいっていうようなことでやることになったんですが、その際に今年ももう1つ指定管理者で南郷地域にある土田畑村宿泊施設で、そこと一緒に共同事業体っていう形にして手を挙げて、それで指定管理者というふうにさせていただきました。それも宿泊施設がある、うちは体育施設がある、で、それがこう上手くマッチングしたら他所からお客さんを呼んで合宿をしてもらってとか、大学生にいっぱい来てもらってというような、そんなイメージで今少しずつ話進めてるとこなんですけど、もしそういうことが上手くいったら例えば南郷地域の自然の中で宿泊していただいて、例えば子どもさんには田植えとか稲刈りの手伝いとかそんなものもやっていただくとか、うちはイベントの会場を提供しますよみたいな、そんな感じで連携しながらやっていきたいなとそんなふうにしてます。

これからはやっぱり知恵を出し合って連携していくっていうところがちょっと、ミソになるのかな。1人だけで頑張るとか、1つだけで頑張るんじゃなくて、志のある人達と知恵を出し合って連携していくのが1つ町を活性化していくんでそういうふうになるのかなってそんな感じもするんで、そこに向かってるんですけども、大変です、実際は。

庄司委員： 案としたら素晴らしいですね。

武田部会長： まちづくりの課長さん方にも、一緒に相談させていただいたりアイデアもらったりして、少しずつ進めています。

庄司委員： やっぱり、何かそういう新しいことを始めるっていうのは時間がかかることなんですよ。ただ、始めなければ本当に動き出さないんで、そういう小さな働きかけがすごく大事なのかなって。

武田部会長： そういうことに関連してネックになる部分なんかも気がついてるんですけども、例えば高齢者の人がそういうイベントがあったりなんかあって参加したいっていう場合に、足がなかなか、利便性っていうかね、それがまだちょっと足りない部分がある、バスの本数が少ないとかね、バスが通ってなかったりとか、行きたいんだけど行けないっていうような、そういう高齢者の人達もいると思うんで、そういうふうにより上手い具合にねバスが循環するとかね利用できるとか、そういう環境になってもらったらせめて町内だけでも限られたときだけでもいいからそういうふうな移動手段を設定してもらったらいいのかなと。

イベントばかりでなくて体育協会のほうでは、それぞれ加盟団体がゲーム、試合形式でや

ったり練習試合をしたりと移動しながらやるんですけども、今ちょっと悲しい状態で、その運転する人がいなくなってしまったというような、そういうスポーツの種目もあります。

高齢者のスポーツで、例えば南郷地区から小牛田地区に移動してゲームをしたいって言うても、南郷地区から移動する手段がない。結局仲間同士でももう運転できない人達がいる。ただ、ゲームはしたいって言うようなそういう要望があるんですけども、そういうことで大会が開催されなくなってきてる種目もあります。移動してやるものばかりではないですけどもね、そういう移動手段がないって言うのは声が聞こえてくるんですよ。もうちょっと便利だったらいいのかなと。程よく便利って言うのはそうなんですけども、なんかねそういう強みのニーズが叶うような移動手段とかあったらいいのかなと思うんですけどね。

教育総務課長： そうですね。結局行政範囲というのは縮まらないで、それが疎になっていくので、サービスはやっぱり続けなければならないと。例えばそれがぎゅーっと小さくなるのであれば効率的に効果的に、やりやすいのですが、そういうわけにもいきませんので、どうしても全体をカバーすると。例えばインフラについても、それについては維持していかなければならないと、それだけでもコストも大分かかっていくと。バスについても、やはりそういうところを細かく拾おうとすればそれだけコストもかかっていくと。そういうところでやはりそのバランスがですね、やはりなかなか難しいと。

それで色々コンパクトシティの構想とかですね、そういうのを国土交通省なんかでも色々打ち出しているんですけども、まず多極的に拠点を整備しましょうと。それを徐々に長い時間をかけてやはり集約していきましょーうって言うような考え方だと思うんですけども、この考え方についてはやはりコストと、そういうバランスなんです。やはり縮小していく中だとどうしても効率的にやっていくと。あとやはり全体的なお金自体が小さくなっていくということを考えていくと、どうしてもそう成らざるを得ない。拡大するときにはどんどん増やしていけばいいんですけども、やっぱり縮小していく中でどのように、どこで下げ止めるか、下げ止まるのかというようなところが非常に難しいなというところですかね。

中村委員： さっき武田委員長のお話にあったPTAの活動なんですけど、私も今年11年目になるんですけども、美里町の連合会のほうで小学校の会長をやって、そのまま中学校の会長もやるということで1つ流れができて今きてるなというところで、新しい中学校になってもそのまますんなり入っていけるような体制をもう3、4年ぐらい前からずっと構築してて、その流れが小学校で会長変わっても、すんなりみんな入って行って伝達してもらって、そういうことの流れがあるよって言うことで話はして一応流れは作っているつもりなんです。

それも宮城県のほうでも周知してくれて、今度の合併についてはだいぶ注目もされてるのかなというところでもあるんですね。なので結局せつかくその中学校が統合するんであれば、もちろん校舎も建てるほうも大事なんですけど、先ほど話のあった提携の話も同時に進めていって、一緒によいドンしてみても、それが成功するかしないかっていうのは何十年先の話になるだけであって、まずやってみて、それが魅力的かどうかというのには周りが判断して、人を呼ぶ力にもなるし、あと入った子供たちがこの学校で自分の子ども育てたいなとか。仕事はどこでもできると思うんですね、車で通えばいいとか、例えばネットがもう少しになればネットで仕事できるなとかというところもなってくると思うので、今度のこの町づくりというところの核の1つなると思うんですけど、中学校の統合という部分。それを、今の子どもたちももちろん大事にして、その子供たちが大人になって、あ、ここに通ってきて住みたいな、自分の子ども育てたいなという

学校、せっかく立派な幼稚園できたし、小学校もそれこそほど良い人数で教育もできて中学校までそれがまとまってできるってなかなかないんじゃないって話も出てるので、それを活かせる町づくりの根幹になると思うので、PTAの視点からいうと、その中学校やるときに、大学の提携ももちろんしていくことによって、もしかしたらどっかの企業さんが目を付けて拠点の1つをうちに置いてもらえるとかってなれば働く場とかも出てくるんだろうし、そういうのも繋がりも出てくるのかなって。

あとは情報のリリースもそうなんですけど、私達はそれの足場を作るよう、あとは子ども達がどう感じるかっていう選択肢ですよ。1個の大学と提携するんじゃないで、子ども達に選ばせる、考えさせて自分はこうなりたいんだとか、これらに興味あるんだなっていう、興味が持てる学校づくりっていうのをしてもらおうと、まさに多分安心なのかなと。

何するんだろう何するんだろうってしか思っていないので、統合するんだよって、うーんって話終わってるので、ただ人数少なくなったから数合わせか、統合するんだねってなると、なかなか学校との壁もできたりとか、地域と壁もできたりとかということになるので、そういうところ取り払うのであれば、こういうふうにしてこういうような状況になると高速インターネットとか、情報もそうなんですけども、人との関わりを切らさないようにするためには、やっぱり魅力あるものをやりますっていうことを作ってあげて、生徒も親も参加して教育とか人も動いてくると町も動いてくと思うので、そういうところを核として1つの形なのかなと、PTAの視点からすると、そういう話もある会も出てますので、興味をすごく持ってる部分の1つではあります。

武田部会長： 中村さんの話の中で、子どもが何になりたいかって話ね、そういう話ちょっと出たんですが、最初的时候に出ましたよね、教育っていうのは何だろうって話で、子どもがこういうふうになりたい、ああいうふうになりたいって夢を持たせるような、夢に向かって進めるようなことをするのが教育なんではないかなって話がちょっと出ましたよね。

そういう手助けができる、画一的に子どもを教育するとかそういうことじゃなくて、子どもの可能性を伸ばしてやる、夢を伸ばしてやる、そういうふうな教育なんではないかって話が一番最初的时候ちょっとね、西浦先生のほうからも出てみんなで話したかなと思うんですね。

だんだん原点を忘れてって、また別のものにいつちゃう場合があるんで、ただそういうのに向かって具体的に何ができるかっていうことを積み重ねて積み上げていくっていうようなことになると思うのですが、いっぱい話したんですが、先生のほうは画面が、出生率のままで止まって、先生の顔見えないんだけど。

西浦委員： 参考になるかなと思って私もちょっとネットで調べてみました。日経新聞の6月5日の記事なんですけど、こういうワーストな記事が出ていてですね、やっぱり出生率は私も学生さんが保育士、幼稚園の職場に勤めるので、すごく気にはしておったのですが、ここまで下がっていたのかっていうのはコロナの件でちょっと気を取られてたので、ここまで及び思いが至ってなかったっていう話で調べてみました。

それで出生率がやっぱり東北が全国、特に宮城が全国で2番目の低水準っていう状況。それに対して私は県のほうの動きは全然分かってないんですが、特に大きな動きをしているようには思えないので、県独自というか、美里町独自のなにか調査をされたほうがいいんじゃないかなっていうふうにも思って伺っておりました。

出生率でごまかされやすいんですけど、出生率よりも出生数で見たほうが減り具合がよく分かるので、確実に亡くなる方のほうが増えているっていうような状況。実は出生率でごまかされる

ことなく見ようと思えば数そのものを追っかけるってこともしないと駄目で、これが現実なので、実際50万人ずつ人口が減ってるっていう話なんですよ。そんなところなんか少し見ておかれたほうがいいのかと思った次第でした。

あといろんな大学の先生とかがああだこうだって議論とか書いてらっしゃるところで、秋田もなんかいろいろやってるんだけどっていうような、婚活のサービス始めましたとか、大概なかな自治体がやっただけでは上手くいかないっていったほうが正解なのかもしれないですけど、いろんな取組が実は、実人数でいったら上手くいっていないっていうようなニュアンスで厳しめに見ると評価できなくもないので、秋田は人口知能使ってマッチングの婚活システム作って成功しだしてるんだけど、それでも減ってるっていう話ですし、岩手県は婚姻数は増えたとかですね、そういう話を書いてあります。

これ何をしたらこう増えたのかがあんまりよく分からないんですけど、仕事と子育ての両立っていう話のところ、やっぱり県内企業も働き方改革を呼びかけるだとか、あと企業誘致される際に、やっぱり美里町特有の事情というのがあると思うので、例えばですけど、兼業農家さんなんかが多いんだと、兼業の場合だとやっぱり農繁期は忙しいんだけどそれ以外は仕事を中心でっていうようなことだったり、上手くやれば、私は農業で副業ができると思っているので、そういったところの企業さん誘致する際に副業OKだとか、もっと緩い働き方ができますよとか、副業したらこんだけ所得が増えましたとか、若い人にとって、やっぱり収入も増えるし子育てもしやすいっていうような、そういうところを打ち出されるといいのかなと思って見ていました。

あと山形とかも書いてあるのは、職場の理解がないとやっぱり育児とか妊娠とかのための通院とか仕事の両立が難しいっていうような話のようです。あと宮城県については書かれているのが、大学が多く20歳前後の学生さんが流入するんだけど卒業後に東京に行ってしまうっていうような話書かれています。

まだあとですね、ちょっとばらばらと書いてあるんですけど、待機児童の対策室やってみみたいな話なんですけど、私自身は、待機児童の対策しても、それは子どもが生まれてからの話なので、生まれる前の準備段階と言ったらなんですけど、婚活から妊娠するまでの間のところをまずは住んでもらう、もしくは定住してもらう、なおかつ出産しやすい、もしくは子育てしやすいとかいろんなプロセスがあると思うので、そのどこでネックになっているのか。

あの、程よく生活しやすいみたいな話だと、なんとなくいいんだけどって言ったら、最近の若者にあんまり響かないので、これができますよっていう具体的な何かプランを出される、もしくは他所はこのレベルの分析なので、他所よりちょっとだけ美里町って良いんですよっていうところが、更新できるような何かこうアイデアとか、そういうものを出していただければいいんじゃないかなと思って聞いていた次第です。

最初の話に戻るんですけど、そういう意味でも、やっぱり町独自の分析だとか、そういうところできていないと、県の言う通りとか国の言う通りにすると、全国でワースト2番目になってしまったっていう、結果伴ってませんよねっていう、ちょっと言い方厳しいんですけど、そういう向こう10年間になりかねないので、美里町の近所で本当に程よくっていう意味で、メディアでも上手くいってそうに聞こえてるのは富谷市ですね。

富谷は人が実際増えていてというような話で、学校も新しくできるだとか、小学校新しく作るだとか、その前に出てくるのが保育所まず新しいの作りましょうっていう話が私らのところではやっぱり聞こえてくるので、待機児童解消とかのレベルじゃなくて、そういうものがポンポンで

きていって、なんか新しく作り変わってるなっていうような雰囲気ですね。中学校作るのも、統合して作るっていうそういうシステムの話じゃなくて、新しいこういうものを作りたいから統合したんですっていうような、そういうところを全面に出されないと、せっかく新しくできたのに建物だけは立派で、結局寄せ集めですかっていうような厳しい話になってしまうので、それこそユネスコスクールとかあったと思うんですけど、何か目玉になるようなコンセプトですよ。ビジョンとかコンセプトを明確に打ち出される。何をやるにしてもそこが大事になってくるのかなと思って聞いておりました。以上です。

武田部会長： はい。ありがとうございました。そうですね、今の最後の話なんですけど、中学校の統合にしても、少子化になったから統合するんじゃないかとね、こういう目的があって、別な目的があって統合するんですよって、これを機会にこういうふうになっていくんですよみたいな、そういう夢を語れる統合の仕方。

例えばコロナで大変なのは分かるんですけど、コロナを機会に、今みんな言われてる、これを機会に変われるっていうようなこともあるっていうかね、そういう考え方なんか必要で、そういう、きちっと調査して理由付けしてやってたらって思いますね。

富谷市の話も出たんですけども、富谷は仙台近郊のね、泉区とかそういうところの近くで、ただ、交通の便からすれば美里町だって鉄道がちゃんとあるわけですし、新幹線も近いわけですし、ただあの富谷は私感じるの、古いもの、歴史と新しいものが上手くマッチングしているような感じがするんですけどね、最近は富谷の昔の歴史を掘り起こしていろいろやってるっていうような感じはすごくするんですよ。それで新しいものも、例えば食べ物なんか割と若い人たちが好むような食べ物をずっと開発してみたり、なんかお菓子を作ったりそんなことがすごく目立ってきてるかなって。

やっぱり何か活気があるなっていうような、外から見てそういう感じがするんですよ。やっぱりあるものを掘り起こして、やっぱりそれが美里町の良いところだっていうようなね、もっと掘り起こすみたいな特徴付けっていうのは必要なかなって思いますね。

それで、一気に具体化するっていうのは大変だとは思いますがね、物の考え方としてそういうのも必要かなって私は今思いました。なんとなくっていうのは、やっぱり駄目ですね。

教育総務課長： やはり富谷なんか大学と連携して街並みとかいろんな工夫したりとかやっているの、うちのほうも色々ですね、大学に限らずなんですけども、やはり若い人の感覚とかそういうものを入れながら連携して例えばいろんな町づくりをやっていけると、面白いのではないかなと思いますね。

西浦委員： 富谷さんは、うちの大学もそうですけど、ブルーベリーを有名にしたいって言って、それでうちのほうに、社会連携センターですね、先ほど言っていたようなところで、食育っていうキーワードで大学の力を借りたいって言って協力を要請されてきました。そういうところの例えば、美里町の小牛田出身の事務職員で1人、元々小さいときに住んでましたっていう職員さんがいて、私が美里町で今こんな話をしているということを言うと、梨が有名ですよって言われました。

それで、梨だったり、例えばお米だったり、やっぱり食べ物が結構有名なのかなというふうにいるので、若い人にそういうものを食べてもらうとか、いろんなイベントも含めて出来ることはあるかなっていうふうには、ぱっと聞いて思い付きレベルですけど、実際動けるようなこともあるんだろうなって思って聞いていた次第です。色々発掘すると面白いものがあると思うかなって、そういう町です。

武田部会長： つい最近、宮城県の石巻市よりもちょっと北の河北町ですかね、あそこを通ったときに鯖出汁ラーメンというのぼりが立ってて、たまたま入ったのがそれこそそのまま昭和の古い建物のお店で親父さんが出てきて接客するんですが、鯖出汁ラーメンね、もうちょっとここんとこ色付けたらいいんじゃないとかって話したら、いやこれね専修大学の学生さんたちと相談してアイデアを練って作ったラーメンなんですよということで、その話聞いただけでなんか嬉しくなってね。ちょっとオシャレではないんですけど、鯖の出汁を使ったその分あっさりした美味しいラーメンだったんですよ。もう少し宣伝すればいいんだけどねって、その感じがまた嬉しくてね、なんかあんまり宣伝しないほうがいいかなって思ったりして食べてきたんですが、なんかそういう若い人と一緒に、潰れそうな町が一生懸命になって美味しいものを作ってる姿ってすごくいいなって思いますよね。

そういうことが広まってくれたら活気が出るのかな。店のおじさんもすごいっぱい話してくれました。張り切ってやってるんだらうなって思って食べてきました。やっぱりそういう若い人の意見も聞きながら新しい感覚と一緒に相談して育っていくのもいいと思います。

色々町を活性化するためとか良くするために意見がいっぱい出たかなと。教育の分野だけでなくもいっぱい出たかなと。まとめる責任がなくて私が喋ってばかりなんですけれども、色々話させて頂きました。

教育総務課長： すみません、あと、残り時間も少ないようですので、だいたいよろしいですかね。

各委員： 「はい」の声あり

教育総務課長： はい。いろいろ今ご意見をいただきましたので、だいぶ多岐に渡っていろんな想いがということなので、こういう部分については全体的な部分に関わりますので、やはり全体的な意見としてあとは事務局のほうに伝えて、あとはそれをやっぱりしっかり上のほうまでですね伝えながらそれを踏まえた計画づくりっていうんですかね、あとは事業展開に結びつけていくというようなところになると思いますので、一旦うちのほうでそれをある程度集約させていただきたいなというところがございます。

それでまちづくり推進課長戻りましたので、他の部会からの意見につきましては、まずはその意見の案を、回答案をお作りするということと、あとは1つは個別にコンピューターリテラシーのことを言ってるわけではないので、全体的なものに対してやはりニーズをしっかりと捕まえてですね、そしてあとは例えば大学等と連携してそういう環境整備をしていきますよと、実践をしていきますよということと、あとその取組自体をやっぱりしっかりと周知していくと。そういうようなところで文章をちょっと書き替えると、今の文章に肉付けをするというんですかね。そういうとこをしていくということなので、調整させていただいて、それを整理したいなと。

まちづくり推進課長： わかりました。

教育総務課長： あとは全体的な部分で修正、訂正しなければならない部分もありますので、それについては訂正したものをみなさんにお配りしてご確認していただいて、それでまた何か直すところがあれば言っていただいて、そしてそれでまとめたなと。

あと新旧対照表は必要なものについては必要な分だけ付けて、ICT環境に関わる部分については、ちょっと現状が変わってきているので、それを修正するので、それも新旧対照表を作るということになると思います。

あと、これまでずっといただいたご意見については表で整理をして、何に対してどうい

うご意見をいただいたかっというのを整理して、しっかり確認をして、それを踏まえた進め方をしていくと。ちゃんと形に残すっていうんですかね、出てきたことをしっかりと受け止める必要があると思いますので、それを作っていくと。それもご確認いただくというようなところで、あとは部会で議論すべきものと、あとは今日いただいたような全体的なものに及ぶ部分と、そういうところも分けて作るようになるのか、一覧表にできるのか、そのへんはちょっとお任せいただければなというふうに思っております。

あと中村委員につきましてもおそらく議事録とかですね、色々ご確認いただいておりますので、内容についてはほぼ認識というか確認なさっているというふうに思いますので、あとまとめたものをお渡ししますので、ぜひ見ていただいてご意見をいただければなというふうに思っているところでございます。

あと今日の議事録も作りますが、前回の議事録について間に合わなくて大変恐縮なのですが、来週前半くらいにはお作りするので、それをお配りさせていただいて内容を確認いただいてからご署名いただくと。あと今回のものにつきましても作って見ていただいて、今日のご署名をどの委員からいただくかということなのですが。

武田部会長： そうですね。決めてなかったですね。

教育総務課長： 最初は部会長と西浦先生で、2回目が庄司委員と、武田部会長ですかね。

武田部会長： それでは、今日の分を、中村さんと、西浦先生にお願いしてよろしいですかね。

西浦委員： はい。わかりました。

中村委員： はい。

教育総務課長： そのような形でちょっと時間いただくようになりますけども、出来次第、確認いただいた上でご署名いただいと。それで、企画財政課のほうからですね、最終のまとめの会議の連絡です。

鎌田係長： 本日は、ご審議いただきまして大変ありがとうございます。

私のほうから第2回全体会の日程についてちょっとご連絡させていただきたいと思います。

第2回全体会ですが、今のところ9月12日土曜日、午前中、今のところ10時から開催できればなっという事で調整のほう進めさせていただいております。

すみません、まだ調整中ではありますので、正式に決まりましたら改めて委員の皆様にはご案内させていただきたいと思いますので、取り急ぎ日程のほう伝えさせていただきましたので、よろしく願いいたします。

教育総務課長： 私のほうからは以上ですけども。ではまちづくり推進課長から。

まちづくり推進課長： はい。わたしのほうはちょっと議会の全員協議会のほうで中抜けさせていただきました。色々町づくりに関係するお話も頂戴したようでございますので、貴重な意見ということで、今後の町づくりに参考にさせていただきたいなと思っております。

本日は本当にありがとうございました。

武田部会長： ありがとうございました。

庄司委員： すみません、1つだけなんですけれども、いいですか。

新中学校が設立されるということで、武田部会長もおっしゃったように、外から人を、新しい風をというお話だったんですけども、私個人、親の1人として考えて、例えば西浦委員のような斬新な考え、わくわくするような考えをお持ちの先生が例えばプロデュースしていただけたら魅力的な学校になるんじゃないかなと感じております。それくらい今と違う変化をつけてっ

てほしいなって、一親として思っています。以上です。

教育総務課長： 是非ですね、これからせつかくのご縁でございますので、是非いろいろと今後の連携とか
させていただいて、ご相談させていただいて、より良いものを目指してやっていけばなと
いうふうに思っております。うちのほうは西浦先生にこの資料いただきまして、大学でやっ
ている子ども園とか、そういう資料いただきまして、見るだけでも非常にわくわくするよう
なですね、楽しい子ども園みたいですので、今後幼児教育から義務教育からということで、
色々取り組んでいかなければならないということで、その根幹となる部分がやはり就学前の
部分ということもありまして、やはり先生はそういうところノウハウをお持ちですので、是
非いろんなところでご意見を聞かせていただいて、連携させていただければなというふう
に、全く庄司委員と同じふうですね、是非今後とも末永くお付き合いいただければというふ
うに思っているところでございます。

武田部会長： 夢に繋がるような話していると、どんどん楽しくなるような、そういう雰囲気話させていた
だいて、こういう一緒の機会を作っていたことに感謝します。本当にありがとうございました。
あと残すのは全体会のほうになったんですが、今話したように、このような仕事にお
声掛けいただいて、しかも夢のある話が、道筋が少しかう見えてきたようなそんな感じもしま
す。皆さんと繋がって、連携して、もっと素晴らしい町になっていけばなと、そんなことに少
し携われたこと誇りに思います。ありがとうございました。

一同： 「ありがとうございました」の声あり

審議終了

一午後 3時48分 終了一

作成者 教育総務課 伊藤

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和2年 月 日

委員 _____

委員 _____